

こんにちは! 日本共産党の

大名みえ子です

ご相談はお気軽にお寄せください

2008年 6月13日 92

〒319-1112

東海村村松2401-2

oona_toukai@yahoo.co.jp

電話・ファックス 029-284-0761

山古志(村・現長岡市山古志)からの手紙

12日、自宅に戻ると長岡市役所からの封書が届いていました。

実は、5月に山古志を訪れる機会を得まして、今でこそ復旧が大分すすんではいきましたが、中越地震で甚大な被害を受けた旧山古志村へ行ってきました。養鯉に最適な地域として有名ですが、山間にたくさんの養鯉池がある、自然豊かなすばらしい景観のまちでした。震災後、山古志村としてだけでは復旧をすすめるのが大変と合併し、長岡市になったそうです。

私の所属する1サークルの企画だったにもかかわらず、山古志支所の商工観光係の今井さんが同じバスに乗って案内と説明をしてくださいました。「地震でこの山が動いて、土砂がこの川をせきとめ、橋が埋まり、人家が埋まりそのままになっています」「あのとき、誰もがこの山古志で再び暮らせるとは思えなかった」「しかし、復興にかけた国をはじめとした全国の力はすばらしくありがたかった」「動物の犠牲がたくさん出ましたが、あの中では、本当にかわいそうだったが人間の避難が最優先だった」など、聞けば聞くほど地震のすさまじさが伝わってきました。たくさんのお話を伺いましたが、書ききれません。

山古志のみなさんが、これが自分達の住むまちとあたり前に思って暮らしていたのに、突然の大地震に見舞われ、家も道路も地域が破壊され、ヘリコプターでなければ避難できないという状況がどんなにもどかしかったかと、想像に耐えませんでした。しかし、目の前で明るく話す旧山古志村職員の姿に、あの惨事を住民とともに乗り越えてきたんだな...と、感動すら覚えました。

高台にあった写真(展示)館に寄り、山古志を愛する写真家達の作品を見てきました。ス・テ・キなものばかりでした。私は、帰りがけに、写真集「山古志の子どもたち」がほしいと無理をいい、今井さんに送付をお願いしてきました。すぐに送っていただいたお礼と代金を手紙にして送っておいたのですが、その返事が、昨日届いていたのです。昨日のお手紙の最後には、「ガイドの勉強をもっとしておきますので、次来る機会があったら迷惑でなければご指名下さい」「また来てくださいね」とありました。あの笑顔が思い出されました。

“次は、誰と行こうかな?..”